

◆シーン1 前4世紀-前200 ～アレクサンドロスの東方遠征～



四大文明はとうに滅んだ紀元前4世紀。これは中国が春秋戦国時代の最中、ローマによるイタリア統一も果たされる前の出来事。世界各地が諸国分立の時代を迎えていた中、いち早く大国家を築いたのはギリシアのマケドニア王国でした。

◆シーン1 前4世紀-前200 ～アレクサンドロスの東方遠征～



マケドニア

春秋戦国時代

アレクサンドロス率いるマケドニアは、隣国のアケメネス朝ペルシアを打倒(前330)して東進すると、インダス川まで版図を広げ、ギリシアからインダス川流域までを支配する大国家となりました。

◆シーン1 前4世紀-前200 ～アレクサンドロスの東方遠征～



マケドニア

バクト
リア

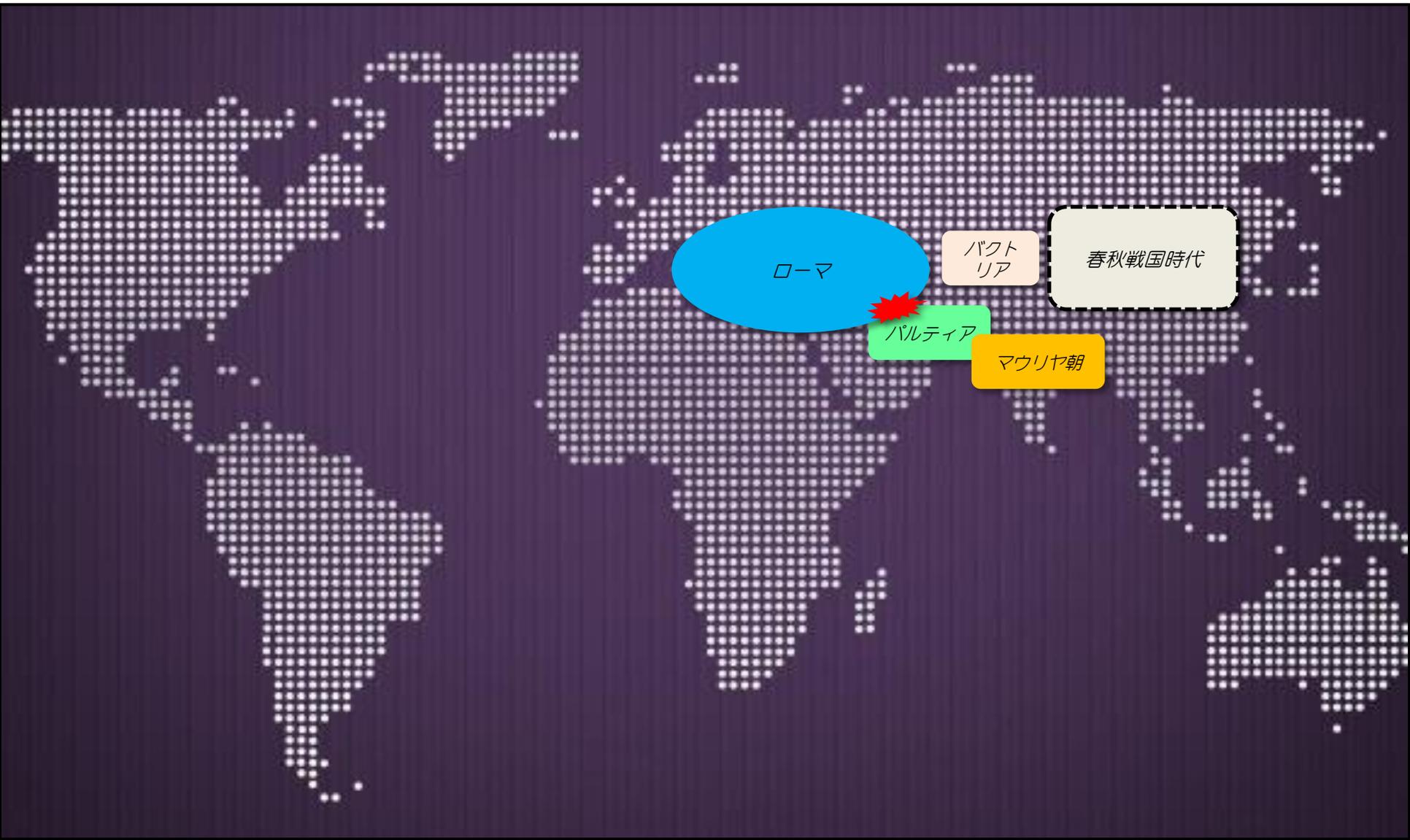
春秋戦国時代

パルティア

マウリヤ朝

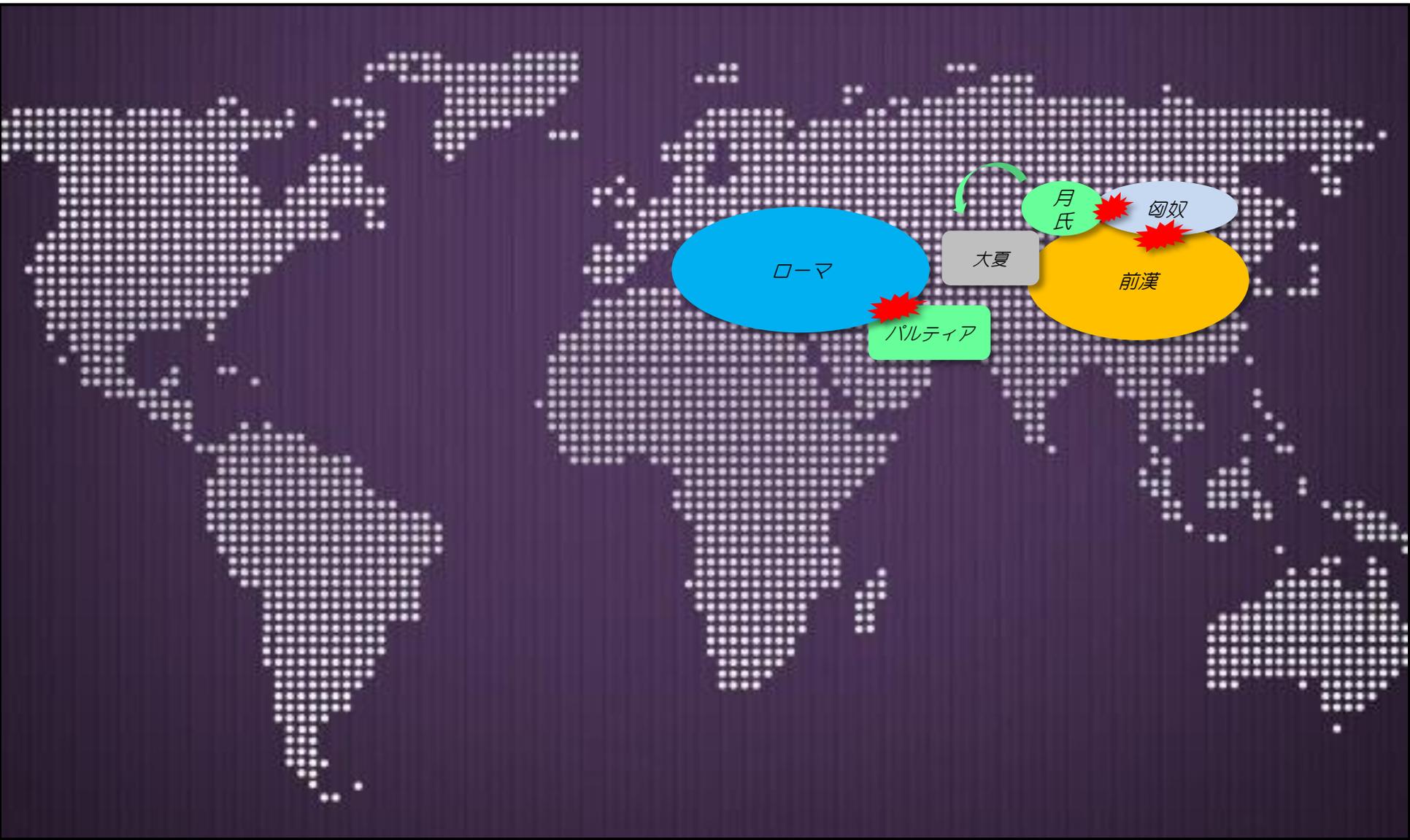
しかし、マケドニアの攻撃に触発されたインドではマウリヤ朝が成立し(前317)、インダス川流域を奪回します。また、アレクサンドロスの死後、マケドニアは分裂し、中央アジア地域からはバクトリア(前255)が、西アジア地域からパルティア(前247)が独立しました。

◆シーン1 前4世紀-前200 ～アレクサンドロスの東方遠征～



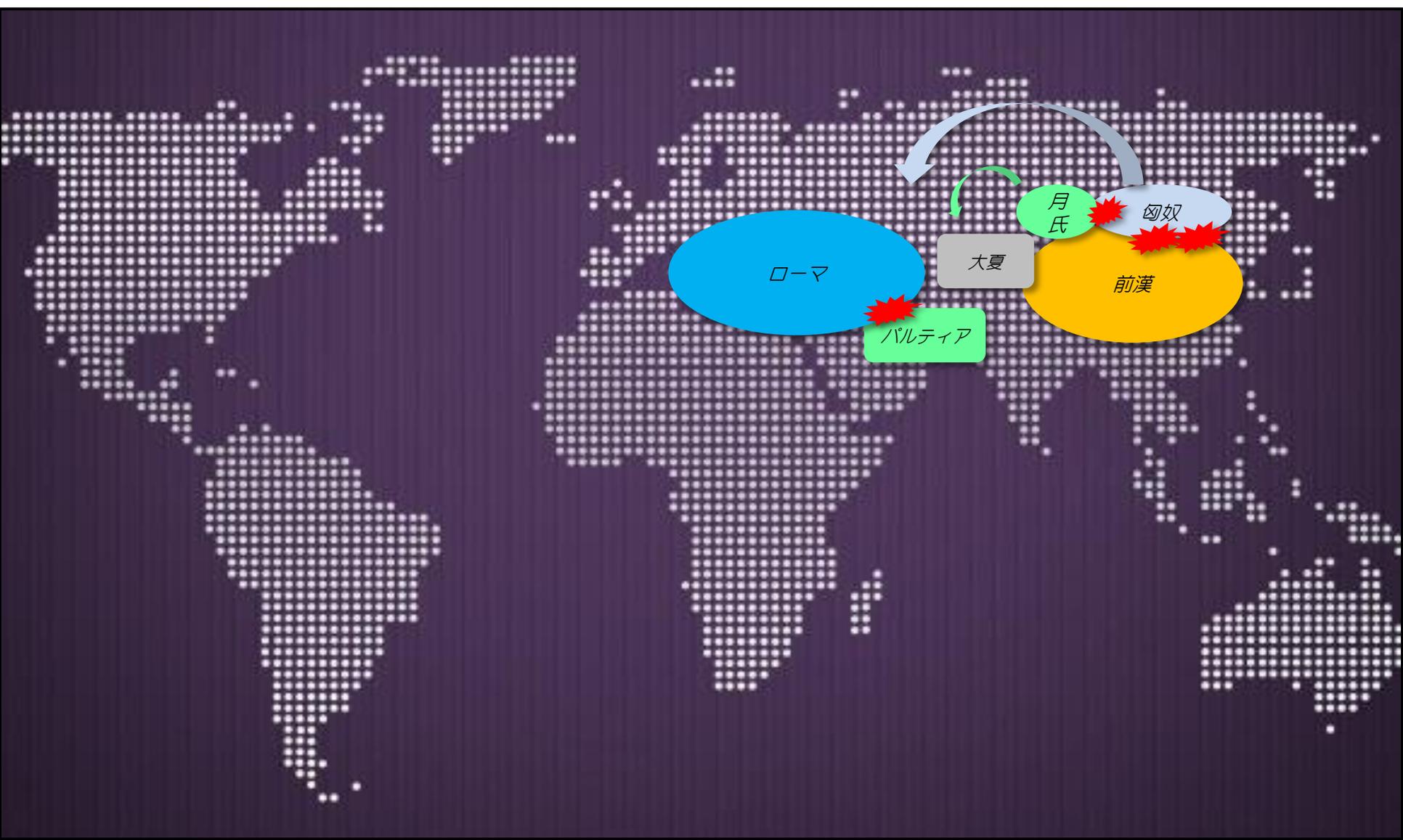
その他のマケドニア領土はイタリア統一を遂げて急速に成長したローマに飲み込まれ、以降、西アジアではローマとパルティアが争う構図が長く続くこととなります。ローマはカエサルの台頭を経て共和制から帝政へと移行していきますが、カエサルのライバルであったクラッススが命を落としたのもパルティアとの戦争でした。

◆シーン2 前200～後500 ～漢vs匈奴がもたらす二つの波乱～



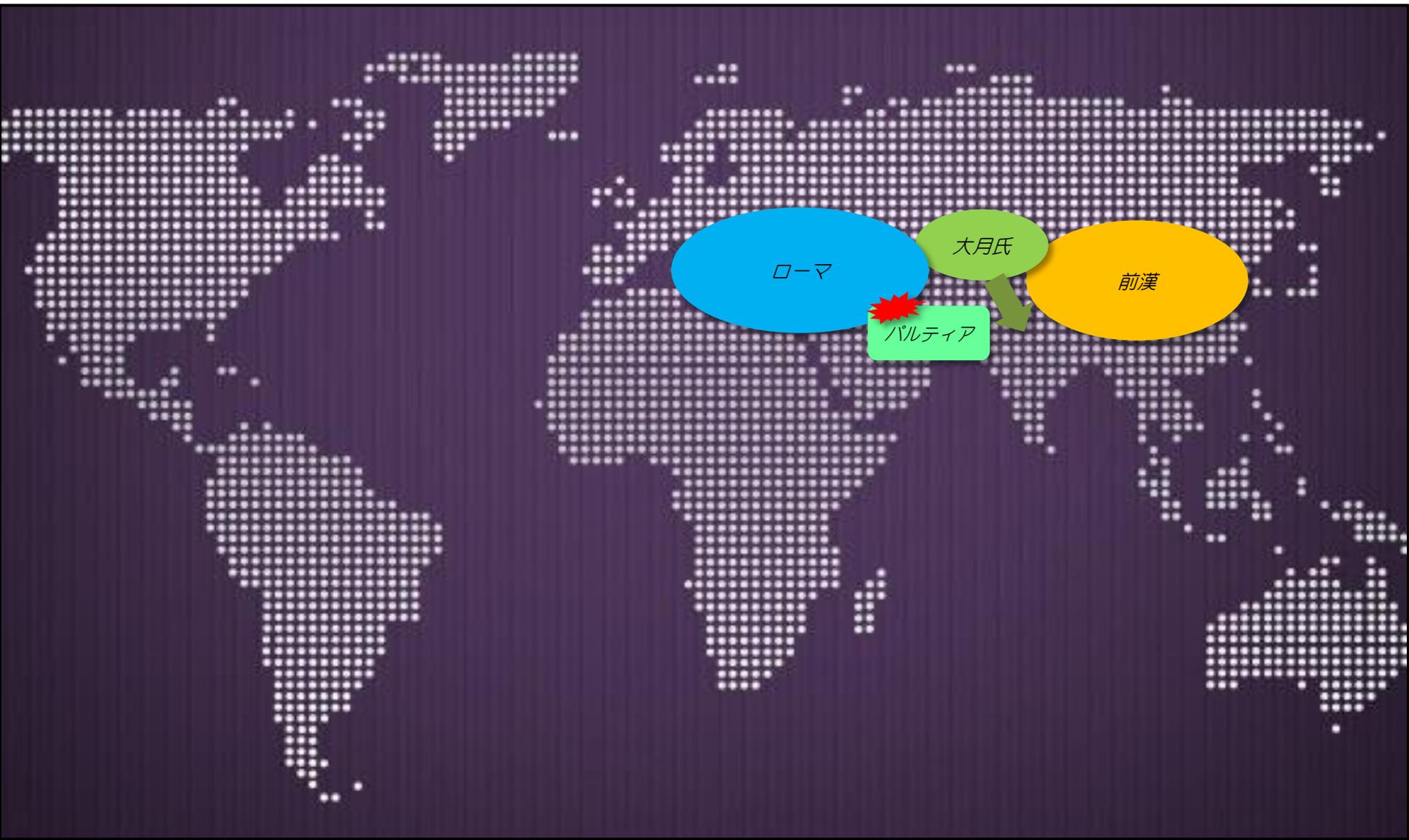
前206年、中国で初の長期統一国家・前漢が成立します。建国者である高祖・劉邦は、北方民族・匈奴との戦いに挑みますが、敗戦して捕虜となり多額の賠償金を支払いました(前200)。これにより勢いを増した匈奴は、中国北西部に住んでいた月氏を撃破し、月氏を中央アジアに追いやりました(前2世紀前半)。

◆シーン2 前200～後500 ～漢vs匈奴がもたらす二つの波乱～



しかし、おごれるものも久しからず。武帝(前156-前87)の時代には、前漢が匈奴戦線での勢いを取り戻し、領内から匈奴を駆逐しました。

◆シーン2 前200～後500 ～漢vs匈奴がもたらす二つの波乱～



一方、匈奴に敗れて西方に追いやられていた月氏は、中央アジアへと移動していました。そして当時バクトリアに代わって中央アジアを支配していた大夏(トハラ)を征服し、大月氏と呼ばれて栄えます。

◆シーン2 前200～後500 ～漢vs匈奴がもたらす二つの波乱～



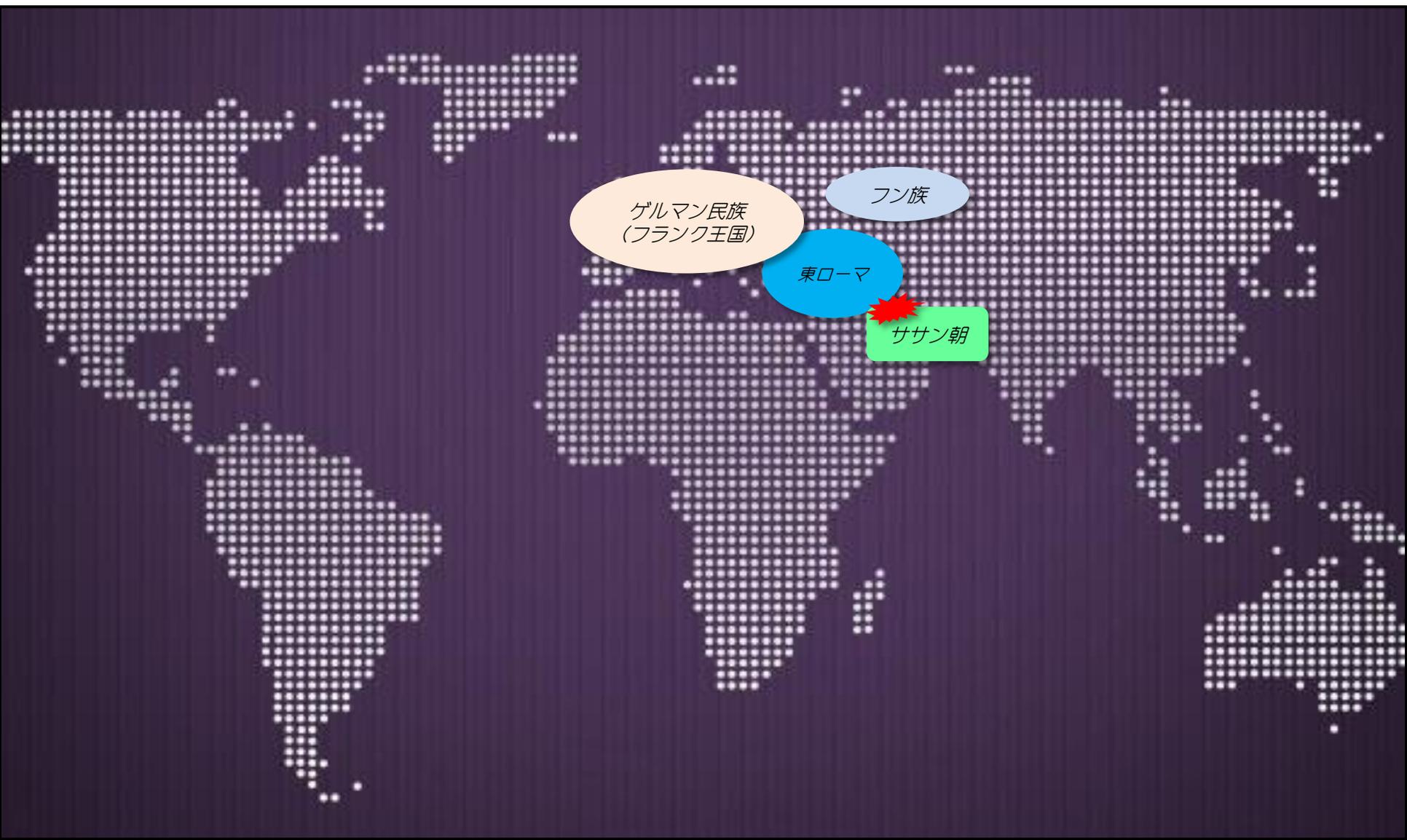
また、大月氏国の一部は部はインドへと侵入してクシャーナ朝を建国し(1世紀)、ローマとの貿易によって繁栄しました。元来仏教では偶像崇拝を禁止してきましたが、異民族国家であるクシャーナ朝の誕生により、美術作品を通じて仏教が東アジア各地に波及することになりました。

◆シーン2 前200～後500 ～漢vs匈奴がもたらす二つの波乱～



しかし、西アジアでパルティアに代わって強力なササン朝ペルシアが成立すると(226)、クシャーナ朝はササン朝の勢いに抗しきれず滅ぼされます(375)。

◆シーン2 前200～後500 ～漢vs匈奴がもたらす二つの波乱～



ゲルマン民族
(フランク王国)

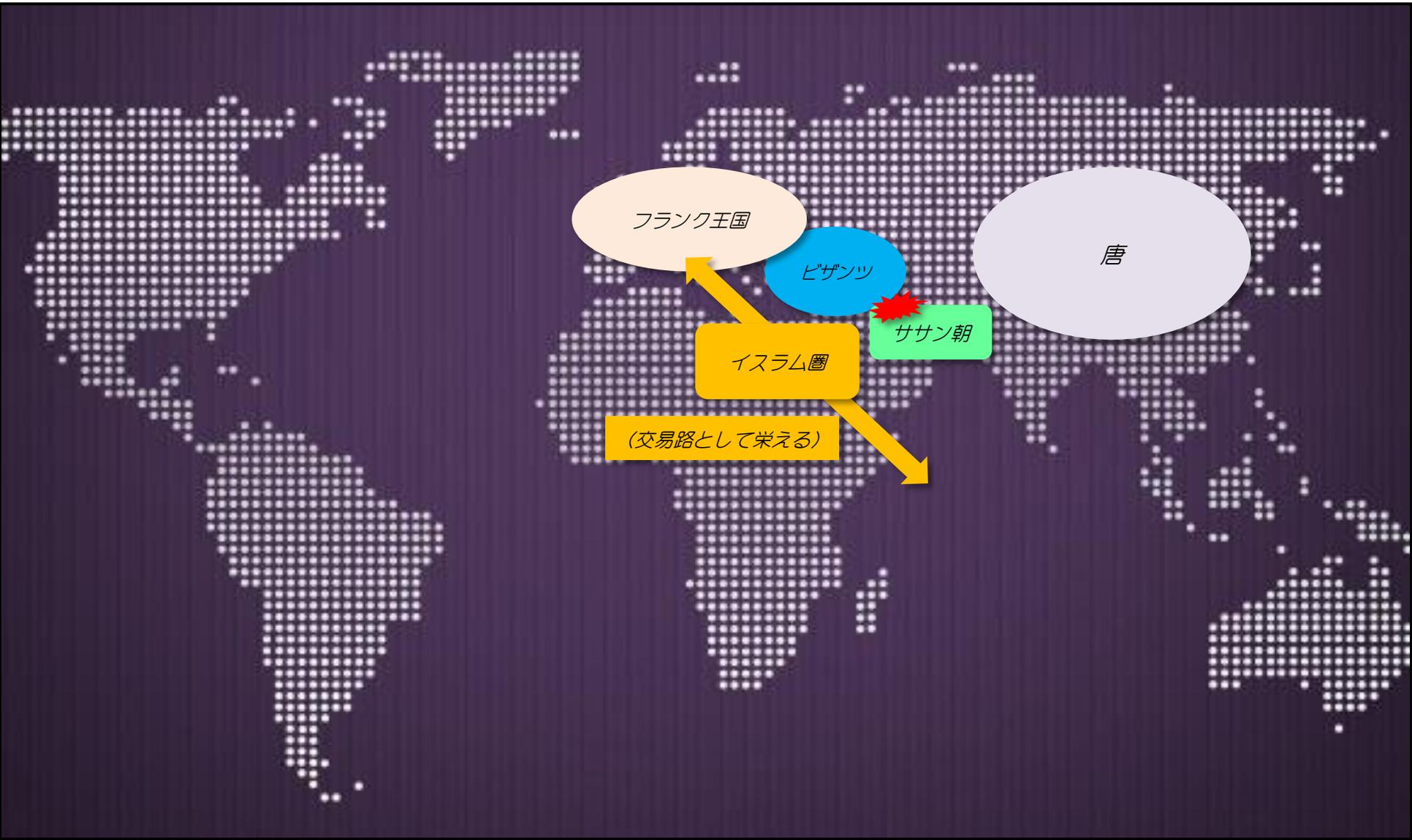
フン族

東ローマ

ササン朝

そしてクシャーナ朝滅亡と同年、今度は武帝が追い払った匈奴の末裔と思われるフン族が東欧に出現し、ゲルマン人の大移動を引き起こします(375)。ローマ帝国はササン朝との戦いを有利に進めるためにゲルマン人を領内に取り込みますが、やがてゲルマン人を抑えきれなくなり、切り離された西ローマ帝国はゲルマン人により滅ぼされました(480)。一方、東欧では東ローマ帝国(ビザンツ帝国)が勢力を保ち、ササン朝の争いが続きました。

◆シーン3 500-1100 ~イスラム圏の誕生~



6世紀、西アジアを舞台にビザンツ帝国(東ローマ帝国)とササン朝が争う中、戦火を避けて西洋と東洋を結ぶ交易路としてアラビア半島が栄え、アラビア半島ではイスラム教が誕生します(610)。

◆シーン3 500-1100 ～イスラム圏の誕生～



フランク王国

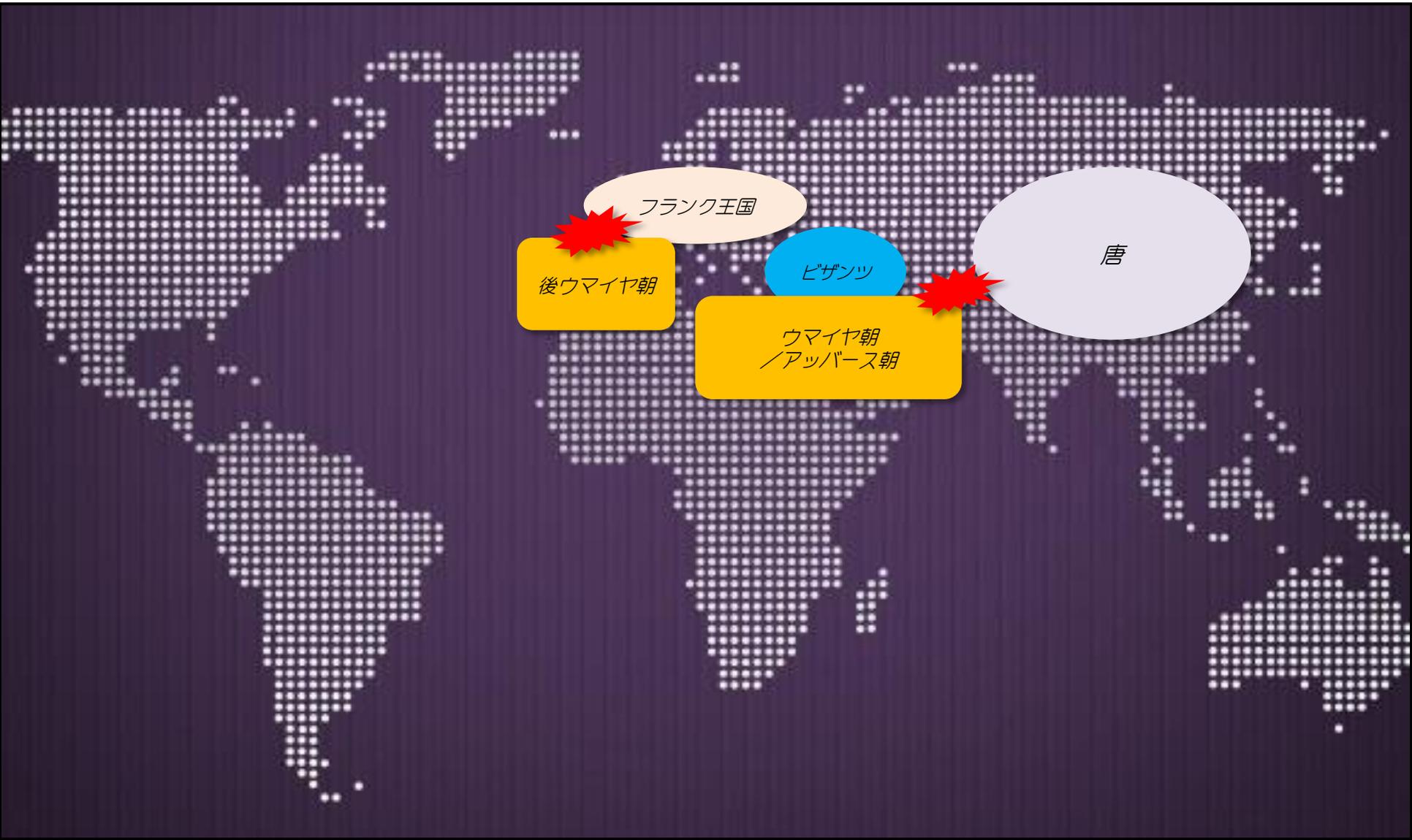
ビザンツ

唐

イスラム圏

イスラム勢力はイスラム教を広めるべくジハード(聖戦)を展開し、中東に進出してササン朝ペルシアを滅ぼしました(642)。ササン朝の争いが契機となって生まれたイスラムに滅ぼされるとは数奇な運命です。

◆シーン3 500-800 ~イスラム圏の誕生~



また、イスラム勢力を束ねたウマイヤ朝は西欧にも攻め込みます。この侵攻はフランク王国によってピレネー山脈で阻止されますが(732)、イベリア半島はイスラム勢力下となりました。さらに、ウマイヤ朝にとって代わったアッバース朝(750)はアジア方面に攻め込み、唐に勝利して中央アジアでのイスラム勢力を拡大しました(751)。

◆シーン4 800-1100 ～中央アジアのトルコ化～



西欧諸国

ビザンツ

パワーアップ!

トルコ系の台頭

セルジューク朝

9世紀、中央アジアで大規模な民族移動が起こります。ウイグルの滅亡(840)を機に、騎馬のエキスパートであるトルコ民族が北アジアから中央アジアに移動してきたのです。そして、まさにこの地に浸透しつつあったイスラム教とトルコ民族が融合し、セルジューク朝らのトルコ系イスラム国家が成立しました(1038)。

◆シーン4 800-1100 ～中央アジアのトルコ化～



西欧諸国

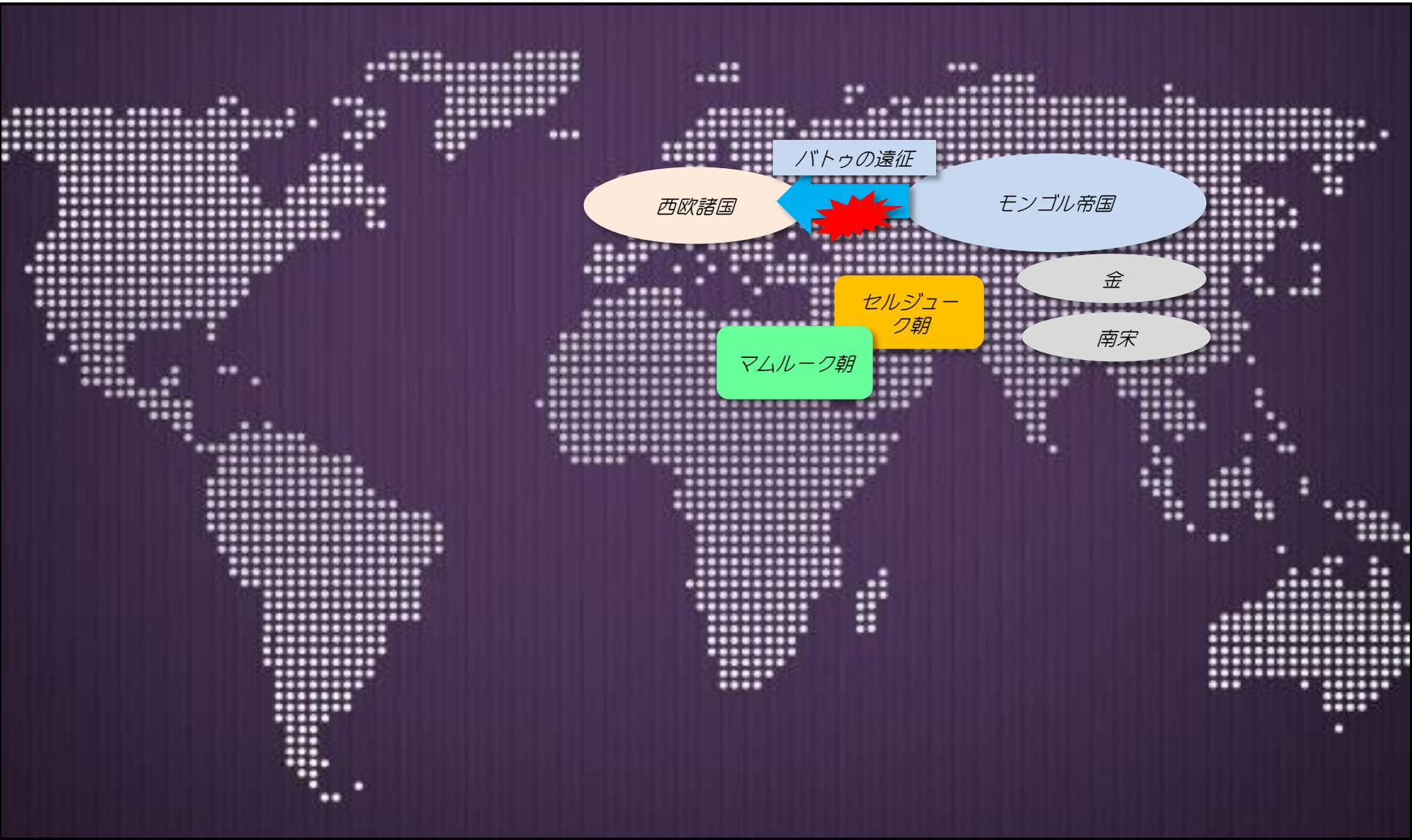
十字軍

ビザンツ

セルジューク朝

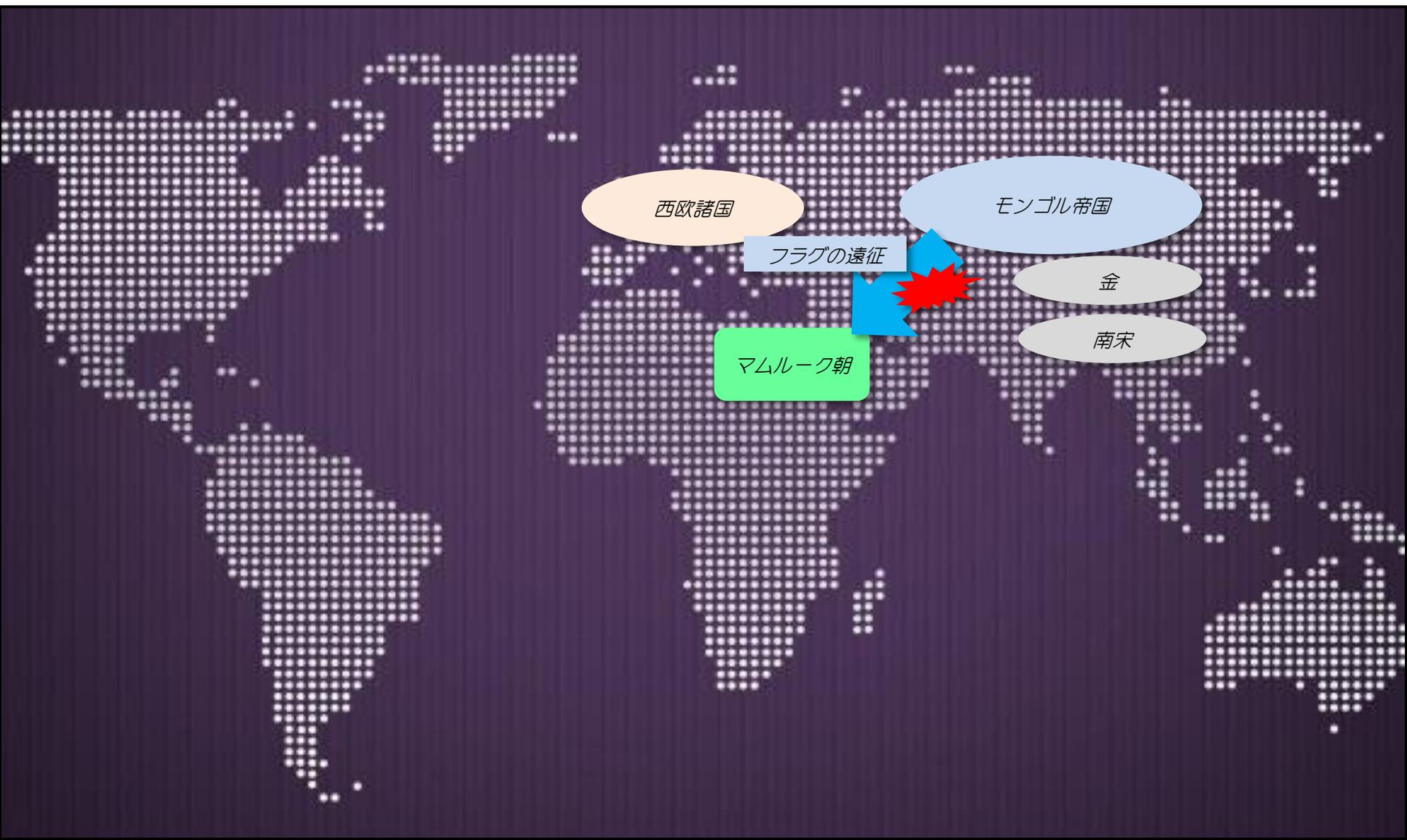
セルジューク朝の勢力は著しく、ビザンツ帝国(東ローマ帝国)の救援要請に応じて西欧諸国から第一回十字軍が派遣されました(1095)。以降も西欧諸国は対イスラム戦線の巻き返しを図って幾度にも渡って十字軍を派遣することとなります。

◆シーン5 1100~1280 ~大激震・モンゴル襲来~



12世紀、北アジアの雄・モンゴル民族は、チンギス・ハン(1162-1227)の下に大勢力を形成し、周辺国家を制圧しました。また、第四回十字軍の攻撃によってビザンツ帝国が途絶えると、その隙を縫うようにバトゥ率いるモンゴル軍が西洋を攻撃し、各地を蹂躙します。

◆シーン5 1100～1280 ～大激震・モンゴル襲来～



さらに、チンギス・ハンの孫であるフラグが、かつて北アジアでライバルであったトルコ民族率いるイスラム国家を次々と制圧しながら、当時のイスラム最強国家・マムルーク朝に迫ります。激戦の末、マムルーク朝はこれを見事に撃退してイスラム圏を防衛しました(1260)。

◆シーン5 1100～1280 ～大激震・モンゴル襲来～



また、モンゴルは、東方では宋を倒して中国全土を制圧し、元を建国しますが(1271)、日本への侵攻は失敗し(1274・1281)、徐々に勢力を失っていきました。

◆シーン6 1280- ~イスラムの覇権から大航海時代へ~



(西欧では百年戦争とかやってる)

西欧諸国

ビザンツ

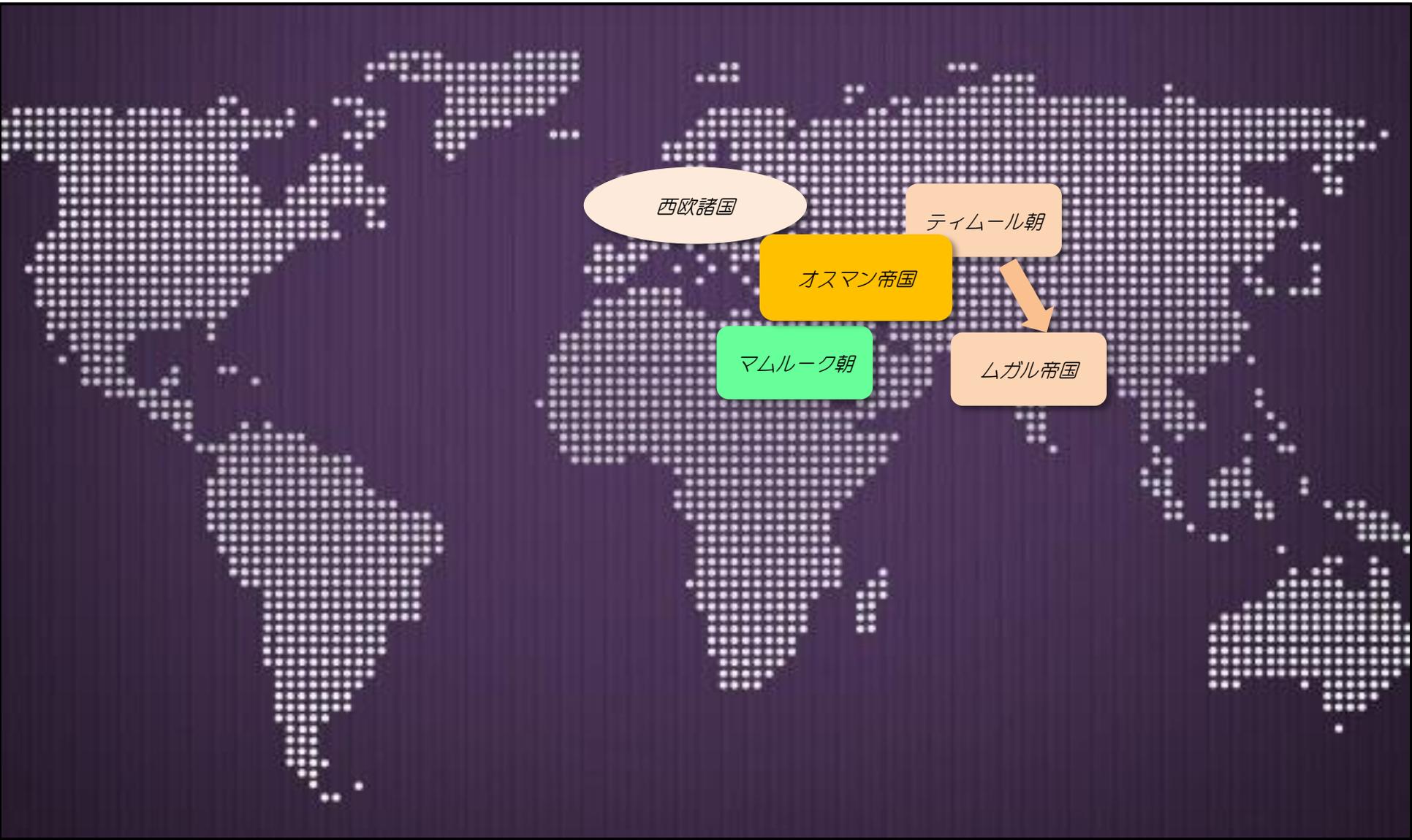
オスマン帝国

マムルーク朝

ティムール朝

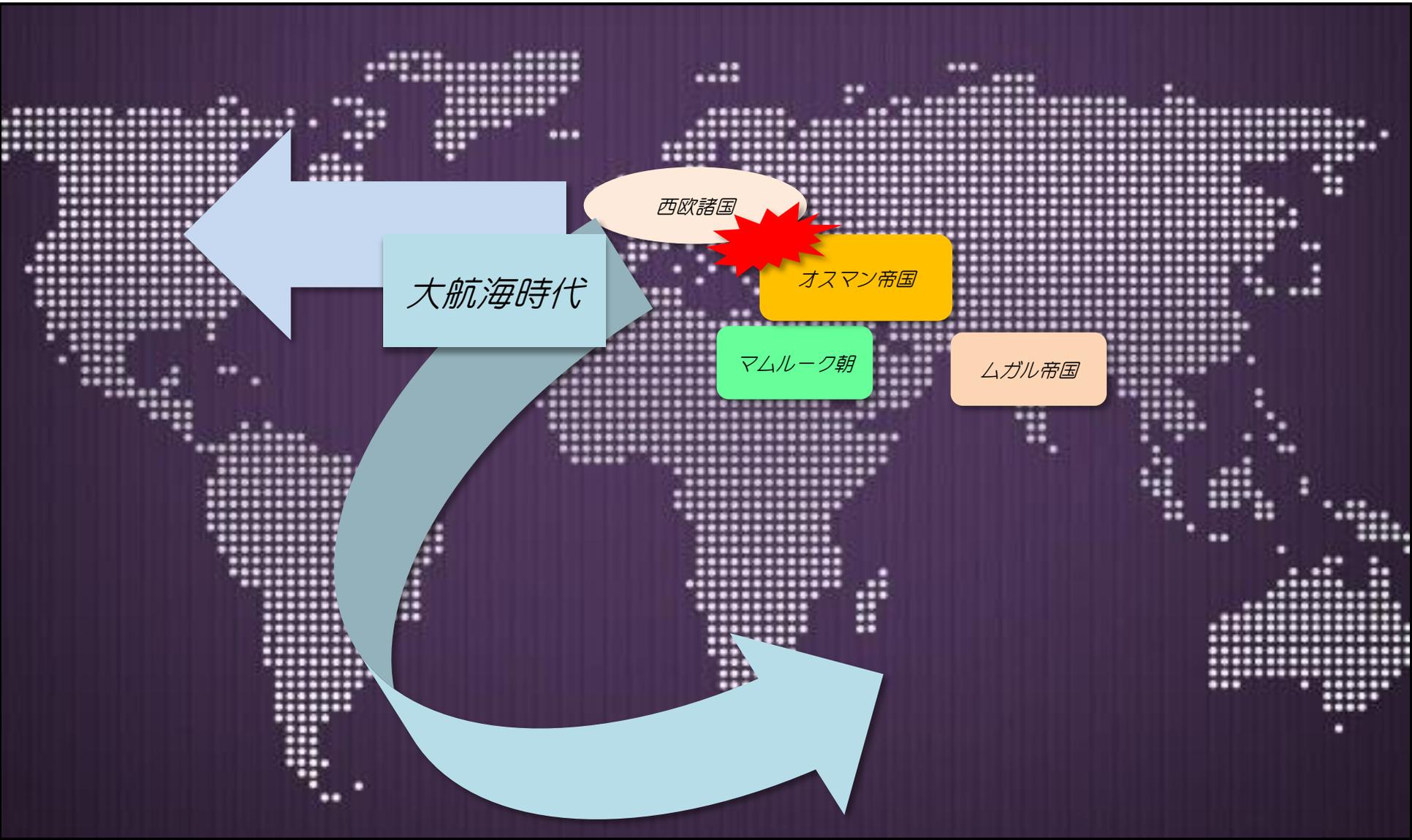
13世紀後半以降、モンゴルの侵攻が落ち着くと、イスラム勢力として二つの強力な国家が誕生しました。一つは、ニコポリスの戦いで西洋の連合軍を撃破した中東の巨星・オスマン帝国(1299)。もう一つは、モンゴルの流れを汲むハイブリッドイスラム国家・ティムール朝(1370)です。両雄は西アジアで激突しました(1402)。

◆シーン6 1280- ~イスラムの覇権から大航海時代へ~



この直接対決はティムール朝が制しますが、オスマン帝国はその後勢いを取り戻し、イスラム勢力の宿敵であったビザンツ帝国を打倒しました。一方、ティムール朝は建国者ティムールの死後、勢いを失い、ティムールの子孫はインドに侵入してムガル帝国を建国しました(1526)。

◆シーン6 1280- ~イスラムの覇権から大航海時代へ~



こうして時代は西欧とオスマン帝国との大規模な対立が主軸となり、戦火を避けた新たな交易路を求めて大航海時代へと発展します。そう、約1000年前に、西欧とササン朝の争いがアラビア通商圏を生み、新たな時代をもたらしたように...